

重点5 歯と口の健康づくり対策

◇目指す姿

- ・生涯にわたり、自分の歯でしっかり噛めるように、う歯数を減らします。
- ・歯及び口の健康を保持増進していくことが生活習慣病の予防にもつながることから、歯周疾患にかかっている人を減らします。
- ・むせや誤嚥性肺炎を予防するために、その原因や予防法などについて学び、知っている人を増やします。

◇指標の達成状況

★評価：ほぼ達成(◎) 改善傾向(○) 横ばい(→) 悪化傾向(△) 評価なし(-)

【保健医療の水準】

No.	指標	策定時の値	直近値	目標値	評価
1	12歳児(中1)の永久歯1人平均う歯数(DMFT ¹⁾)	0.82本	0.50本	0.26本以下	○
2	進行した歯周疾患 ²⁾ または 重度歯周疾患 ³⁾ に罹患している者の割合	40歳 33.6%	37.3%	1割以上減少	△
3		50歳 47.1%	42.1%		◎
4		60歳 54.3%	52.2%		○
5	70歳で自分の歯を22本以上有する人の割合	73.1%	78.6%	79.1%以上	◎

¹⁾DMFT / (D永久歯う歯数 + M永久歯喪失歯数 + F永久歯処置歯数) ÷ T受検者数

²⁾進行した歯周疾患 / ポケット(歯と歯ぐきの境目の溝) 4mm以上6mm未満

³⁾重度歯周疾患 / ポケット 6mm以上

H21・H26 長野市学校保健統計・歯周疾患検診

【市民自らの行動指標】

No.	指標	策定時の値	直近値	目標値	評価
6	3歳までは甘いもの(お菓子、飲み物など砂糖が入っている食品)を食べないように工夫した人の割合	57.6% (H25)	48.1%	増加	△
7	小学生でフッ化物塗布、またはフッ化物洗口を受けたことがある子の割合	66.1%	69.9%	74.2%以上	○
8	小学生でしっかり噛んで食べることができる ⁴⁾ 子の割合	7.1%	6.4%	9.8%以上	△
9	歯周疾患の原因・予防方法を知っている人の割合	64.3%	71.5%	65.4%以上	◎
10	糸ようじや歯間ブラシなどの歯間部清掃器具を使用している成人の割合	41.6%	51.6%	44.1%以上	◎

⁴⁾しっかり噛んで食べることができる / 1口20~30回以上噛むことができる。

H21・H27 健康づくりに関するアンケート

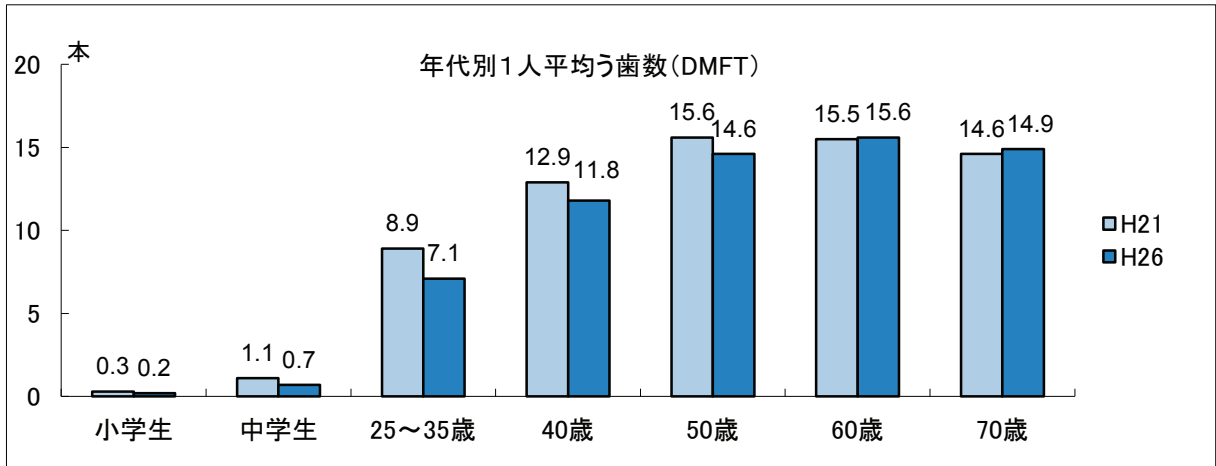
【行政・関係団体等の取組指標】

No.	指 標	策定時の値	直近値	目標値	評価
11	歯周疾患検診受診率	7.3%	8.2%	9.7%以上	○

H21・H26 歯周疾患検診

○ 永久歯のう歯の状況

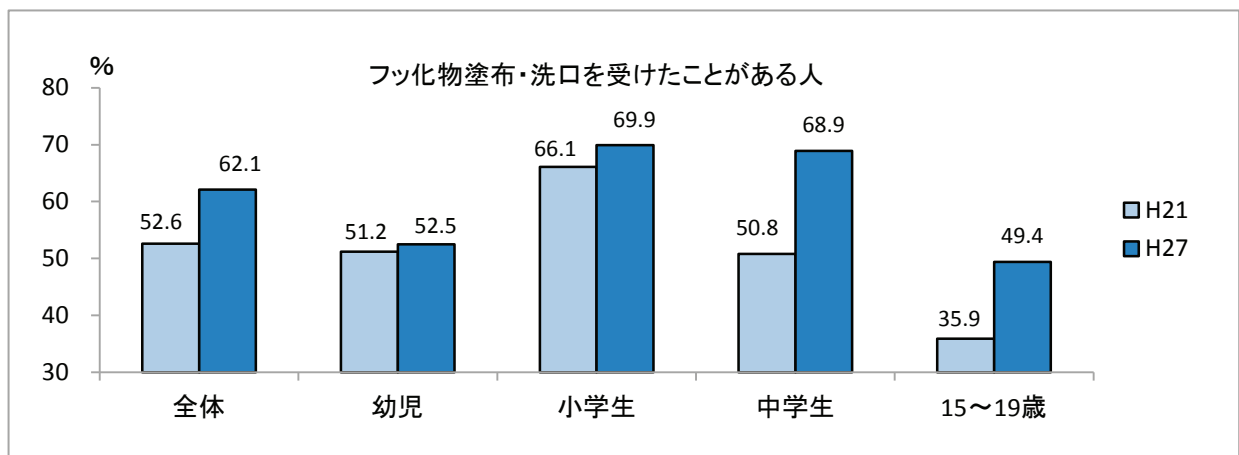
(図1)



小学生・中学生：H21・H26 長野市学校保健統計
 25～35歳：H21・H26 長野市親子よい歯サポート教室
 40～70歳：H21・H26 長野市歯周疾患検診

- ・ 永久歯1人平均う歯数(DMFT)は、年代別で見ると、小学生、60歳、70歳はほぼ横ばいですが、その他の年代では改善しています。

(図2)

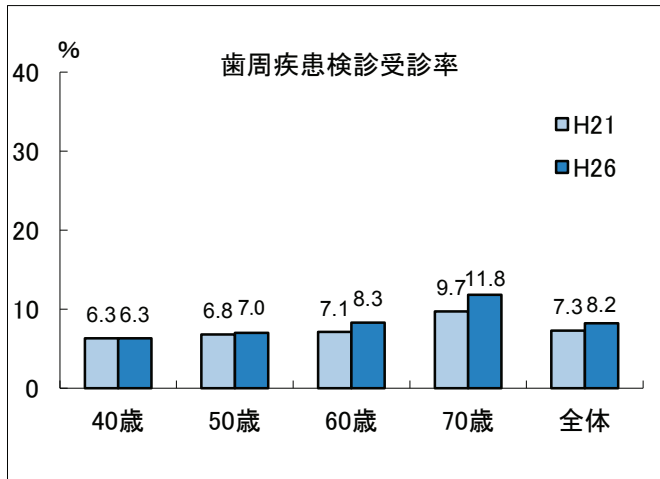


H21・H27 健康づくりに関するアンケート

- ・ フッ化物塗布・洗口を受けたことがある人の割合は、全ての年代で増加しています。

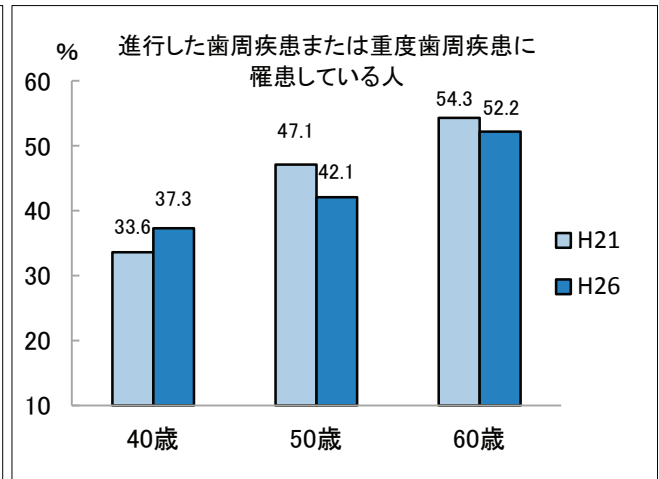
○ 歯周疾患の状況

(図 3)



H21・H26 長野市歯周疾患検診

(図 4)

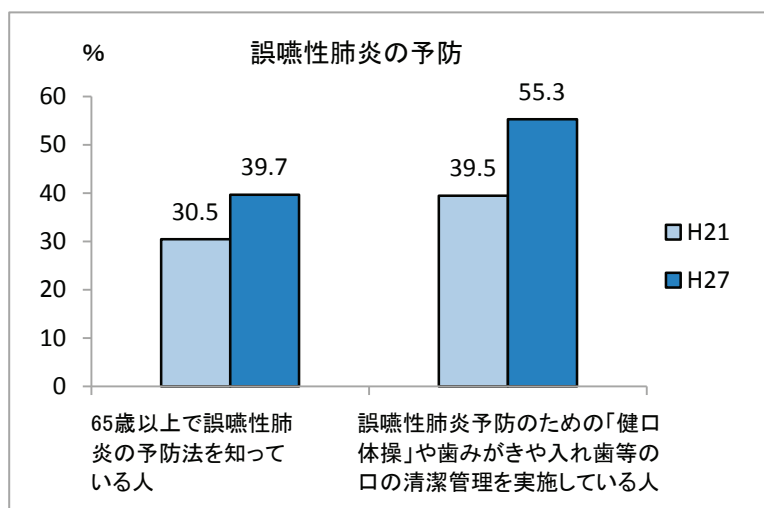


H21・H26 長野市歯周疾患検診

- ・ 歯周疾患検診の受診率は、増加したものの、その割合は8.2%と低い状況です。定期的に検診を受ける意識が低いと推測します。
- ・ 進行した歯周疾患に罹患している人の割合は、40歳で増加していますが、50歳、60歳では減少しています。歯周疾患を予防するには日常のセルフケアと定期検診が必要ですが、糸ようじや歯間ブラシなどの歯間部清掃用器具を使用したケアが定着してきていると考えられます。

○ 誤嚥性肺炎の予防

(図 5)



65歳以上で誤嚥性肺炎の予防法を知っている人：H21・H27健康づくりに関するアンケート

65歳以上で誤嚥性肺炎予防のための健口体操や歯みがきや入れ歯等の口の清潔管理を実施している人：
H21長野市むせ予防教室 H27健康づくりに関するアンケート

- ・ 65歳以上の人で誤嚥性肺炎の予防法を知っている人は、増加しています。
- ・ 65歳以上の人で誤嚥性肺炎予防のための「健口体操」や、歯みがきや入れ歯等の口の清潔管理を実施している人は、15.8ポイント増加し、55.3%に改善しました。
- ・ これらの要因としては、老人クラブや教室等での啓発により、知識が普及してきたと考えられます。

◇ 指標に関連した主な施策（事業）

- フッ化物洗口の実施
- むせ予防教室
- 歯周疾患検診
- 親子よい歯サポート教室
- 歯を守る市民の会との健康づくりの推進

◇ 今後の課題

- ・ う歯数(DMFT)については、若い世代を中心に改善が見られ、引き続き、この状況を維持していくために、歯科医師会等との連携を図りつつ、むし歯予防に対する普及啓発に取り組む必要があります。
- ・ 市が実施している歯周疾患検診受診率は、低調となっています。歯周疾患は、あらゆる全身疾患等との関連性が指摘されており、年齢が上がるにつれ、歯周疾患に罹患する人の割合が高くなるため、正しい知識の普及など歯周疾患予防に関する取組が必要です。
- ・ 高齢期における口腔機能の向上や口腔内環境の改善の取組は、生活の質の向上にも寄与し、むせや誤嚥性肺炎等の予防にもつながることから、引き続き、推進していく必要があります。